

コロナ禍における在宅診療専門クリニックの立ち上げ

あおい在宅クリニック 看護師 冠野 真弓

1. コロナ禍における在宅診療のスタート

2020年4月より当院は開院し、現在は常時100名以上の往診患者を医師一人・看護師一人・事務一人で支えている。開院当初は、コロナ禍への突入時期であり、感染対策物品が十分に手に入らない状態で、診療も混乱を来たしていた。通常診療のマニュアルもない中で、コロナ対応の共通認識をスタッフ間で持つ困難さ、職種間での感染対策の意識の違いなどがあり、その都度話し合う必要があった。

2. コロナ禍での在宅療養の選択の増加

コロナの影響は診療する側だけでなく、患者や家族にも大きな影響を与えた。病院や施設での面会が制限され、終末期の患者であっても、家族が自由に面会することができない状態となった。そのため、これまでであれば在宅で過ごすという選択をしない患者や家族が在宅療養を選択する事例が多数あった。

事例

- ・長年、施設入所をしており、施設看取りとなる予定だった患者
- ・独居で緩和ケア病棟に入院していたが、関東在住の子どもと面会できない状況の患者
- ・最期の時は病院と決めていたが、間際まで在宅で過ごし看取り時のみ入院をした患者

退院前カンファレンスも通常時のように十分できない中、患者と家族が、元々在宅療養を考えていなかった患者・家族に対して、共に過ごせる時間（とき）を大切に在宅診療医や訪問看護師、ヘルパーやリハビリスタッフなど共に支援を行っている。さらに他事業所との連携を図り進めてきた。現在もまだ進行形である。

3. ワクチン接種スタート

2021年5月より通常業務に加えて、新型コロナワクチン接種の業務が開始となった。保管方法や場所の確保、接種のための取り扱い方法について検討を重ね、各病院や医院が手探りで始めた。65歳以上の方は、インターネット予約が困難な場合が多く、電話対応が主となり、通常の業務が圧迫された。また、往診をしている当院の患者は往診時にワクチン接種をすることができるよう、かつ、6時間以内接種が順守できるよう訪問ルートの変更などを検討し対応した。9月現在まで4000名近くのワクチン接種を終えているが、キャンセル等が出て破棄することなく業務を遂行できた。